

## 16 戦時下における医事雑誌の

### 統合廃止

寺 畑 喜 朔

昭和十六年わが国は戦時体制下となる。出版界も「出版新体制」となり、用紙の統制、雑誌の整理統合が進められ、統制団体として「日本出版文化協会」（同年三月）を設立、並行して「日本出版配給株式会社」の発足をみた。

医学雑誌を大別すると、(一)医育機関、(二)医学会、(三)民間企業に分けられる。戦時下の整理統合の対象となったのは、民間出版社発行にかかわる医事雑誌である。昭和十六年三月段階で既に医学分野では通俗三二誌を一一誌、保健三三誌を一二誌、薬学三〇誌を六誌に統合を完了しているが、統合は更に進む。

代表的な統合誌は東京中心に「戦時医学」、大阪中心に「日本臨牀」である。つぎに書誌的にこれらの統合の内

容につき概要を示す。

(一)「戦時医学」(昭一九・七)、新発足宣言に「正に熾烈なる決戦段階に突入せる大東亜戦争の現情勢に対処し、雑誌報国の一念に燃ゆる同憂の誌(実験醫報)、(臨牀の日本)、(醫海週報)、(診療の進歩)等の僚誌は、各々伝統ある誌歴を一擲し、潔く廃刊の上、他の二誌をも吸収して、当局指示の下に画期的大合を断行し、茲に新たに(戦時醫學)を発刊する」と述べた。合併誌の誌歴は実験醫報(大三一昭十九、本誌は昭十六年に既にグレンツゲヒート及臨床画報を合併)、臨牀の日本(昭八一同十八)、医界週報(昭十五一同十八、本誌は昭十五年に医海時報一明二十八昭十五、医界展望一昭十昭十五、内外時報一昭十昭十五を合併)、診療の進歩(昭十九年発刊、同十八年、診療の経験)、「日新治療」(塩野月報)「華文日新治療」の四誌を合併)

「戦時医学」は敗戦後「綜合医学」(昭二十一)と改題して発行継続している。

(二)「日本臨牀」(昭十八・六)発刊の辞には「……此秋に當り関西在籍発行の臨牀醫學雜誌八社大阪醫事新誌社、現代之醫學社、實驗治療社、中央醫學社、日本優生学会、

日本臨牀醫學社、臨講社、臨牀と藥物社は国家の現状を達観し、自発的に過去の歴史と社情を一抛し、翕然投合し、以つて醫學新日本の強力なる一翼たらんことを期し、株式会社日本臨牀社を創立し、茲に臨牀醫學雜誌「日本臨牀」を発刊せる次第なり……とある。

合併誌の誌歴は、大阪醫事新誌(昭五―同十八)、現代之醫學(大九―昭十七)、實驗治療(大十一―昭十八、昭二十二再刊)、中央醫學(昭十五―同十八、同誌は昭十五年に新興醫學―昭十三―同十四、臨牀日本醫學―昭七―同十四を既に合併濟)、日本優生學(大十三―昭十八)、臨牀醫報(昭十六―同十八、同誌は昭十六年に關西醫事―昭四―同十六、醫界之進歩―大五―昭十六を合併)、臨講(昭五―同十七)、臨牀と藥物(昭九―同十八)。

「日本臨牀」は敗戦後、そのままの誌名を継承して今日発行を つづけている。

### (三)「東京醫事新誌」

本誌は明治十年創刊のわが国の代表的な醫事雜誌であるが、戦時となり昭和十五年誌名を「日本醫學及健康保險」と改称、昭和十八年十一月「米英襲滅の大科学戦下

改題の辞」をかけた、「厚生」を合併して「日本醫學」と改める。敗戦後、「東京醫事新誌」として再発足する。そして、昭和三十六年(七七卷、十二号)大島盛一社長の死去に伴い、休刊を告げて創刊八十四年の幕を閉じた。

時代の推移と反映の結果とはいえ、現代のわが国の醫事雜誌の出版状況は、氾濫そのものと云わざるをえない。そして、反古同然に処理される諸誌の運命たるや、慨嘆の一語につきるのである。

(金沢医科大学)